

日本映画放送株式会社 第62番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成30年3月20日（火）15時～16時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 7名
出席委員(順不同、敬称略)：菊地 実・鈴木 嘉一・尾形 敏朗・砂川 浩慶・
曾根 和子・鳥居 美砂・西 正
欠席委員(敬称略) : 田保橋 淳
放送事業者側出席者：代表取締役社長 杉田 成道
常務取締役 佐藤 信彦
執行役員編成制作局長 宮川 朋之
編成制作部副部長 小川 英洋
編成制作部マネージャー 三宅 歩
編成制作部マネージャー 小林 良弘
番審担当 堤 靖芳
清水 明(記)

4. 議題(1) 審議事項

日本映画専門チャンネル「開局20周年企画『ジョバンニの島』について

(2) 報告事項

時代劇専門チャンネル「三屋清左衛門残日録 三十年ぶりの再会」について

5. 議題(1) 概要

日本映画専門チャンネルは、開局20周年企画として“伝えたいもの、残したいもの”をテーマに、後世に語り継ぎたい作品を放送していく。その第1弾は2014年劇場公開の長編アニメーション映画『ジョバンニの島』で、北方領土のひとつ、色丹島に暮らす一家の過酷な運命を描く。原作・脚本は弊社代表取締役社長の杉田成道。監督は西久保瑞穂。声の出演に市村正親、仲間由紀恵、仲代達矢など。主人公のモデルとなった得能宏さんが小樽市の子供たちに『ジョバンニの島』と自身の体験を語る特別番組を製作し、併せて放送した。

【審議 POINT】

- 映画『ジョバンニの島』をご覧になり、作品をどのように評価されますか。
- 映画を放送するだけでなく、主人公のモデルとなった徳能さんの特別番組を併せて放送することで、作品の背景等をより深く伝えられているでしょうか。

6. 議題(1)審議内容

- ・大人の鑑賞に耐える美しいアニメ映画で、2度観たが2度とも泣いてしまった。北方領土問題は終戦後にソ連が占領し、島民が追放された歴史を教えられていたが、日本人とロシア人に人間的な交流があったと初めて知った。
- ・敗戦前後の北方領土を扱った作品は少なく、とても貴重な映画だ。宮沢賢治の『銀河鉄道之夜』をモチーフにしたこともあり、大人から子供まで観賞できる良作になっている。作品内で「露助」という言葉がたびたび聞かれたが、問題はないのか。
- ・良い作品だった。特別番組では徳能さんと一緒に子供たちが作品を観て、経験者本人から当時を伝えられているが、こうして戦争を立体的に考えていくのは、子供のみならず、大学生などにも通用する手法だろう。
- ・背景画が凝っていて、夕焼けなどの色彩感覚の良さが光っている。断崖絶壁をよじ登って鳥の卵を取る場面の鮮やかな色づかいや星空の藍色も美しい。豪華声優陣にも目を見張った。放送や口コミで広がり、将来ベストムービーになりうる作品だと思う。
- ・特別番組と併せて放送することは、作品の付加価値を上げ、チャンネルで作品を観る意義を高める良い取り組みだ。樺太では終戦後本土防衛のため民間人が戦闘に駆り出され、数千人も死んでいる。樺太に舞台を移すのなら、その悲劇にも触れてほしかった。
- ・とても感動した。アニメならではの心象表現も美しく、実写よりも話に没入できる。故郷を失った悲しみが淡々と伝わり、戦争の大変さを素直に受けとめられた。
- ・おもちゃの汽車が暗い部屋を行き交う幻想的な場面はアニメならではの光の表現に心が躍った。登場するソ連人は好い人が多く、日本人もロシア人も同じ人間である、という視点で作られているので、なぜこうした悲劇が起きたのか？ 戦争とは？ 国とは？ といった問いが逆に深く心に突き刺さる。特別番組内で得能さんが言った「北方領土は日本人の故郷なんだ」という言葉は、現在の福島にも通じ、大変心に残った。

各委員からの発言に対して、当社からの説明・回答は以下の通りであった。

- ・「露助」という差別語については考査・検討の末、一定のお断りを付けてそのまま放送した。あらゆる差別は許されず、弊社も無論認めるものではない。しかし、現在差別語であっても、言葉には時代の生活、文化、意識などが反映されており、代替のきかない場合もあるし、また差別語の使用でただちに差別表現になる、あるいは作品が差別的メッセージになる、とは考えていない。「露助」は当然避けたい言葉ではあるが、本作の設定下では必然性のある表現であり、製作者にロシア人に対する差別的意図があったり、その使用により作品が差別的な映画になった訳ではないと判断している。
- ・色丹島での撮影が困難なためアニメ映画化した。様々な国籍のスタッフ約600人が関わり、時間も手間も想像以上で、慣れないやりとりに苦労はしたいが、良い作品ができたと思う。スタジオジブリの『火垂るの墓』は今も学校で戦争を学ぶ教材として観賞されているが、この作品もそうした役を担えれば、と願っている。

7. 議題（2）報告事項

【時代劇専門チャンネル「三屋清左衛門残日録 三十年ぶりの再会」について】

2月3日、時代劇専門チャンネルで“藤沢周平 新ドラマシリーズ”「三屋清左衛門残日録 三十年ぶりの再会」をテレビ初放送した。第一作・第二作が好評で、視聴者はもちろん、主演の北大路欣也自身も熱望して実現した第三作であり、今後BSフジでの放送も予定もされている。視聴希望の問い合わせや加入も多数あり、時代劇需要の強さをあらためて感じ、引き続きオリジナル時代劇製作を力強く推進していく方針である。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成30年5月15日(火)15時より開催。